

デジタル時代の著作権協議会(CCD)権利問題研究会 平成21年度 第2回研究会

開催日時:平成21年9月18日(金)

午前10時～午後0時

開催場所:社団法人コンピュータソフトウェア著作権協会 会議室

・議事次第

(1) メディア探索技術とコンテンツモニタリングについて

〈発表者〉

日本電信電話株式会社 NTTコミュニケーション科学基礎研究所
メディア情報研究部 メディア認識研究グループ
主幹研究員(特別研究員) 博士(工学)
柏野 邦夫氏

株式会社NTTデータ 流通・サービス事業本部
メディア・情報ビジネス事業部 第一統括部
荒 智子氏

株式会社NTTデータ 流通・サービス事業本部
メディア・情報ビジネス事業部 第一統括部
総山 健太氏

(2) 許諾コード標準化・実装の進捗状況について

〈発表者〉

早稲田大学セキュア&リーガルデジタル流通研究所
木下 信幸氏

(3) 「第8回権利問題並びに保護技術等に関するアンケート」について

(4) その他

・議事概要

1. 議事(1)について

- ・(株)NTT データの荒氏及び NTT(株)の柏野氏より、音楽や映像の同一性につき識別できる「メディア探索技術」の紹介が行われた。
- ・また、上記技術に基づき、(株)NTT データにて実施している「ネットモニタリングサービス」及び「全曲報告サービス」の紹介が行われた。
- ・「ネットモニタリングサービス」は、インターネット上の動画投稿サイトで

投稿されているコンテンツと、コンテンツホルダより受領したコンテンツを照合・特定し、場合によっては投稿サイトに対して、削除要請を行うものである。

- ・「全曲報告サービス」とは、テレビ局やラジオ局に対して、上記技術を用いて、放送番組内で使われた楽曲を特定し、楽曲リストを提供するサービスのことである。
- ・また、P2Pソフトやオンラインストレージサービス（または Cyberlocker 等とも呼ぶ）上で流通しているコンテンツの、状況把握や警告・削除要請を実施するという「コンテンツモニタリングサービス」に関する説明が行われた。

2. 議事（2）について

- ・早稲田大学セキュア&リーガルデジタル流通研究所の木下氏より、「許諾コードの国際標準化動向とその適用事例」について、発表が行われた。
- ・平成19年の動向として、(i)デジタルラジオにおいて、許諾内容に応じた再生制御を確認する等の楽曲ダウンロード実験が実施されると共に、(ii)「ジャパンコンテンツショーケース」においては CCD ID モデルが共通コンテンツ ID、共通事業者 ID として採用されたことが報告された。
- ・平成20年の動向として、(i)同年2月に、許諾コード (DRPC) が「IEC」国際電子技術標準化会議の国際標準 (IEC 62227) として承認された他、(ii) 同年6月に、IEC 国際電子技術標準化会議ホームページで許諾コード方式仕様書が公開されたことなどが報告された。
- ・さらに平成21年の動向として、(i)1月に、創作者団体協議会が権利者情報 DB を公開する事業において、許諾コード方式による ID 発番が発表されたことや、(ii)7月に、電子雑誌有料配信サービス (マガストア) にて許諾コード方式を採用することが発表されたこと等が報告された。
- ・また、今後の動向として、(i)許諾コードの国際標準規格策定機関が協調して、権利情報の相互運用に関する国際標準規格の策定される予定であること等が報告された。

3. 議事（3）について

- ・事務局より、上記アンケート案につき、概要の説明が行われた。
- ・また今後のスケジュールとして、同アンケートの配付を10月に開始すると共に、11月に集計を行うことが、合わせて事務局より説明された。

4. 議事（4）について

- ・次回研究会の開催日は未定であるが、11月20日（金）の午前10時から開催する方向で、事務局にて調整を行うこととなる。

以上